

わたしたちが目指す 連携のかたち



藤掛病院居宅介護支援事業所
ケアマネジャー 山本 節子さん

高齢化がますます進んでいくなか「安心して暮らしていけるあり方を考える」第一歩になればと思い、かけそばネットに参加しました。ケアマネジャーで意見を交わす場は以前からありましたが、今回、歯科医師や薬剤師など他業種の意見が聞け、新たな発見もできました。さまざまな支援機関が用意される時代になりました。何かあっても一人で抱え込まず、いろいろなつながりを持ち「今」を生きさせていただきたいですね。



可児とうのう病院附属訪問看護ステーション
訪問看護師 安藤 恵美さん

医療や介護は患者さんや利用者さんが中心にあるべきだと思います。かけそばネットに参加したことで、それが実現に近づいています。訪問看護は療養上の支援をするだけでなく、家の状態などからその人の生活も見えています。その情報を医師や薬剤師が、治療や調剤などに生かしてくれています。病気になっても、生き生きと過ごせるようにお手伝いできればと思っています。



可児とうのう病院
ソーシャルワーカー 村瀬 真由美さん

昨今は入院期間が短く、病気を抱えたまま在宅に戻るケースは珍しくありません。多くの患者さんや家族の相談を受ける中で、医療と介護の連携の重要性をしみじみと感じており、そんな時にかけそばネットの声がかかりました。安心できる暮らしは先の不安を取り除くことから始まります。困った時にはこんな相談先があるんだということを知ってもらい、情報を上手に取って活用してほしいですね。

かけそば ネット

参加している専門職の皆さんにお話を伺いました。



V・drug 広見薬局
薬剤師 村田 明隆さん

保険薬局も店外に出て地域での活動を求められる時代になってきました。かけそばネットの活動では、医師の往診に同行することで、患者さんの状態をより細かに把握でき、調剤の相談もしやすいです。薬は毎日飲んでもらうものですから、飲み合わせや副作用など、それぞれに合わせた処方必須です。日ごろから「お薬手帳」に情報をまとめておくと、災害時などで薬剤が不足した状態でも、代替薬の提案ができます。



ホワイト歯科クリニック
歯科医師 杉浦 石根さん

地域の住民は地域で支えることが重要ですが、専門的な支援が必要な時には、私たち専門職のかけそばネットが支援します。また、介護の現場では口腔内環境を整えることが難しいと思います。口の健康を損なうと食欲が低下し、低栄養になり、心身の衰えにつながったり、誤嚥性肺炎など感染症のリスクも高くなったりします。口腔内の健康は介護予防にもなります。在宅において歯科に関する困り事は、可児地域在宅歯科医療連携室にご相談ください。



桜ヶ丘クリニック
医師 浅野 純一郎さん

往診は開業医の大切な仕事のひとつだと父（医師）の背中を見て育ち、開業当初から続けています。かけそばネットの活動で、ケアマネジャーや訪問看護師など、他専門職の理解も深まり、適切な提案ができるようになったことで、よりスムーズに仕事ができるようになりました。世の中病気にならない人はいません。特に40歳を超えると日々の積み重ねが体調を大きく左右します。健康診断を受けて少しでも気になることがあれば相談してほしいです。

介護予防のためにできることから始めませんか？

講座や教室に行こう！

- 認知症知得講座
認知症という病気の理解、対応や予防方法を学びます。
今後の予定：9/5(木) 土田地区センター
- おいしく歯歯歯教室
自分の口の状態を確認し、お口の健康について学びます。
今後の予定：7/18(木) 帷子地区センター
- 認知症予防教室はつらっ
半年コースで認知症予防について学びます。
- まちかど運動教室
歩いて行ける場所で気軽に参加できる教室です。
椅子に座って、頭と体を使った体操を楽しんでいます。



かかりつけ医・かかりつけ歯科医を持ちましょう！

かかりつけ医・かかりつけ歯科医は日頃から治療の相談ができる身近なお医者さん。いざという時の治療の希望や思いを共有するための話し合いの時間を持ちましょう。



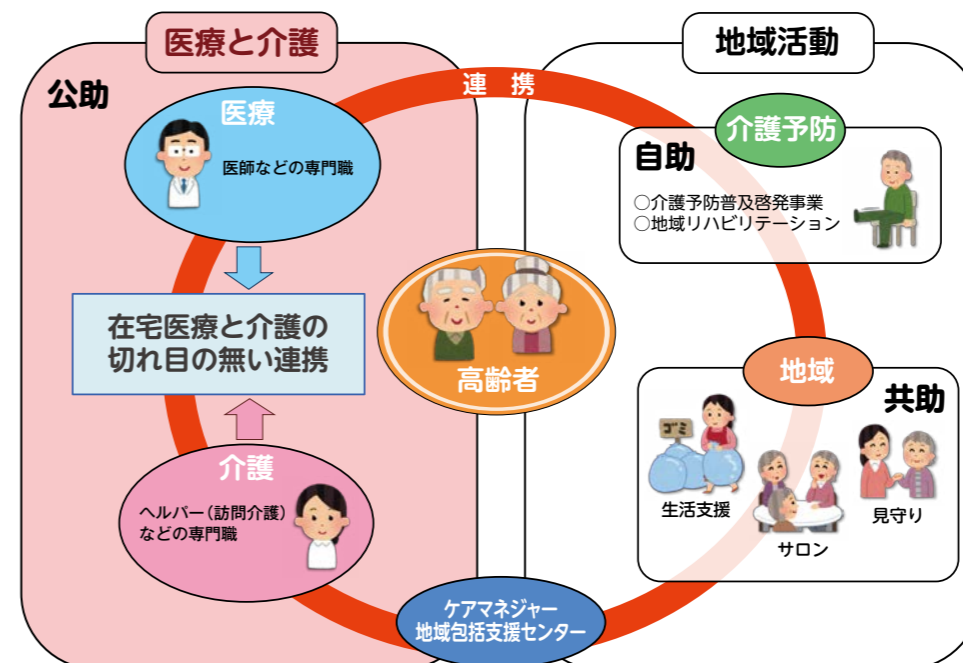
■かかりつけがあると・・・

- ・生活に根差した医療が受けられます。
- ・病気の予防や早期発見・治療につながります。
- ・適切な専門医の紹介が受けられます。

■かかりつけの探し方

病気になってから初めてお医者さんを探すのではなく、前もって準備しておくことが大切です。健康診断などを利用して自分に合ったかかりつけを探してみましょう。

可児市地域包括ケアシステム(Kケアシステム)の取り組みとは？



いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けていけるよう、可児市地域包括ケアシステムの構築を目指しています。(左図)

今回は「かけそばネット」の専門職同士の連携や情報共有(公助)について紹介しました。こうした取り組みとともに大切なのが、自らが行う介護予防(自助)や地域での取り組み(共助)です。

みなさんまずできることから、将来に向けた取り組みを始めませんか。